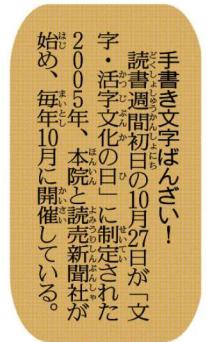


書く楽しさ 知り伸び伸びと

第15回 手書き文字ばんざい!

思い思いに言葉選び筆握る



参加者はまず、会場内に展示する作品を書き上げた。その中の10種類の臨書を取り組みました。今回のテーマに沿って選ばれた手本の文字は、「絆」(かま)、「夢」(ゆめ)などの10種類。会場では、熱心に筆を運ぶ子どもや、その様子を動画に収めの臨書に取り組みました。

手書きの文字
写・書道って
すばらしい
れいに美しく
字を書こう
の美しさは
文化のバロメーター



書道を通して手で文字を書かれた楽しさを知つてもらつ、「第15回手書き文字はんざい！」が令和元年10月13日、大阪市中央区の〇ΜΜビルで開催されました。今回のは「未来へ続く和・輪・環」。幼児から大人まで約300人の参加者は、様々な書体で書かれた手本を見ながら臨書をしたり、大きなパネルにメッセージをつづったりして手書きの楽しさに触れました。



オープニングでは、同年春の日本書院役員展で魁星(さき)が選ばれた同院「科審」(かくしん)会員・藤林聚香さんが揮毫(けいごう)。力強い筆さばきで「個の光(みどり)」が見えない力を生み出す」と書き上げると、会場にはため息とともに大きな拍手が起きました。続いて、読売新聞大阪本社の橋本誠司・取扱(ほりとり)貴さん(11)は、「行書(ぎょうしょ)や草書(くassou)など、普段書かない書体の文字を、たくさん書けるのがうれしい」と話し、提出作品には前回と同じ「和(わ)」の文

「普段、書道はしていないのですが、年に一回、家族みんなで楽しめるイベントとして参加しています」と話すのは、兵庫県尼崎市から来た小林淳一さん(39)。「学校の書写の時間よりもたくさん書ける」と目を輝かせる長女・小学4年・夏凜さん

(10)、集中して臨書を繰り返す次女の小学2年・かのんさんは(7)の様子に、母・順子さんは40代やんちゃな子のいつもとは違う一面を見つめます。目を細めていました。配布物には色紙型のカレンダーも含まれており、参加者全員は、空白部分に思いの言葉書き添え、絵の具で色を塗って自分だけの記念カレンダーを作成しました。また、書きコロナーでは、子どもたちが筆やサインペンを使い、

伸び伸びと「書く」とを楽しみました。

参加者募集 令和2年 第16回手書き文字ばんざい!

【日時】令和2年10月11日（日）午後1時から
【会場】OMMビル2階Cホール（大阪市中央区）
【申込】代表者の住所、氏名、電話番号、参加者数、参加者全員の氏名、年齢、学年を明記して、FAXかはがきで日本書芸院事務所宛てにお申し込みください。
※参加無料。小学生以上が対象で定員300人（先着順）。小中学生は保護者同伴。用具類は不要。

【主催】公益社団法人日本書芸院、読売新聞社

【主催】公益社団法人日本書院、読売新聞
【後援】文部科学省、大阪府教育委員会、

【後援】文部科学省、大阪府教育委員会、
大阪市教育委員会、謹壇テレビ（申請予定）

【協賛】あかいも、眉竹、ヰクラクレピア、ザブラン

【協賛】あかしや、眞作、サクランボレハス、セノブ、
トンボ鉛筆、パイロットコーポレーション

トントル鉛筆、ハイロットゴーポレーション、
ペントス、墨運営（予定）

新型コロナウイルス感染症の蔓延状況による市長

新型コロナウイルス感染症の蔓延状況により中止となることによる本年の正月と春節臨時休業についてご確認を

ござりますので日本書芸院ホームページをご確認ください。

Digitized by srujanika@gmail.com

【主催】公益社団法人曰本書芸院、読売新聞社
【後援】文部科学省、大阪府教育委員会、
大阪市教育委員会、読売テレビ
【協賛】あかしや、呉竹サクラクレペス、ゼ

トンボ鉛筆、パイロットコ
ぺんてる、墨運堂(50音順)